

## 第14回流山市全市コミュニティ推進委員会会議録要旨

- 1 日 時 平成23年9月15日(木) 午後2時
- 2 場 所 流山市役所第2庁舎304会議室
- 3 出席委員 相川 征治 委員長、狼 正久 副委員長  
梅谷 秀治 委員、河村 栄夫 委員  
小泉 尚子 委員、染野 智司 委員  
野路 烝一 委員、高市 正高 委員  
倉田 繁夫 委員
- 4 欠席委員 関谷 昇 委員
- 5 事務局職員 兼子 潤一 コミュニティ課長  
須郷 和彦 コミュニティ係長
- 6 協議事項 (1) 地域まちづくり協議会に関するパンフレット  
について  
(2) 地域まちづくり協議会シンポジウムについて  
(3) その他
- 7 協議状況 開 会 午後 2時00分  
閉 会 午後 3時55分

## I. 事務局からの報告

- (1) 「柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会」設立について
- ・ 9月3日(土)まちづくりシンポジウム2011  
「柏の葉の都市防災とこれからのまちづくりを考える」が開催され、兼子コミュニティ課長が参加した。
  - ・ 3月11日の大震災でどういう状況になったかを経験し、これからどういうまちづくりをしていくか。
  - ・ 自分(個人、市民、家族)から、近所(町会、自治会)、それから行政が必要であるという話に時間をかけていた。
  - ・ 柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会が設立され、防犯、震災をもとにして防災をどう考えていくか。まちづくりの視点での講義を行ったという報告もされた。
  - ・ おおたかの森と同じような動きが始まったという感じであった。
  - ・ 今回のシンポジウムは、主催は柏の葉アーバンデザインセンター(UDCK)、共催は柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会で開催された。発起人は企業に勤めていた若手職員。

柏の葉キャンパス駅前まちづくり協議会は、柏の葉アーバンデザインセンターが中心となり、企業が主体である。

駅周辺の住民組織2団体(柏の葉キャンパス一番街町会、パークシティ柏の葉キャンパス二番街管理組合)と立地機関6団体(京葉銀行、辻仲病院、ららぽーと、柏の葉アーバンデザインセンター、三井不動産、三井不動産レジデンシャル)が構成会員である。

- ・ 柏の葉駅前まちづくり協議会と流山おおたかの森との関連はなく、まったく別のものである。

## Ⅱ. モデル地区からの報告

### (1) 流山小学校区まちづくり協議会

#### 【事業について】

- ・ 大震災防災事業：  
8月27日（土）参加者約130名
- ・ 伝統文化維持向上事業：流山の史蹟についての講演及び法話  
9月3日（土）（於：赤城福祉会館）参加者25～6名  
9月10日（土）（於：流山福祉会館）参加者12～3名  
9月18日（土）（於：平和台福祉会館）  
10月10日（祝）フィットネスな一日  
（於：セントラルフィットネスクラブ流山店）
- ・ 9月3日、10日と開催してきたが、思うようには人が集まらず苦戦している。

#### (スプリングフィエスタについて)

- ・ 来春4月のスプリングフィエスタについては、事務局、商工会議所、協議会から人を出して話を進めており、10月の合同会議には全市コミュニティ推進委員会からも参加していただきたいとの要望があった。
- ・ 内容については、議論を進める中で計画が大きすぎるのではないか、地元ができることから始めて積み上げていって将来的に大きなものに育っていけばよいのではないかという意見も出ており、それを調整しながら進めている状況である。
- ・ 産業博覧会が終わると商工会議所も体制がきちんとできるとのことなので、深く検討していくということで進んでいる。

#### 【協議会が抱える課題】

- ・ いまだに事務所の問題についてはなかなか先が見えてこない  
ので困っている。
- ・ 空き店舗を借り上げるとしても、お金と人の問題があり、解決策が見い出せていない状況である。

## (2) 新川まちづくり協議会

- ・ 8月 6日(土) ホタル観賞会 参加者 約100名
- ・ 8月20日(土) トンボ教室  
12～3人の子どもと7～8人の保護者が参加
- ・ プロジェクト3「地域の課題・お宝発見」については、7月8月に9グループ、のべ30～40名の方に小学校区内を歩いてもらって、また流山北高校、北部中学校、新川小学校にも協力していただき、「興味深いところ」「危ないなと思うところ」「改善したらどうだろうと思うところ」などを見つけてもらった。現在整理中であるが、60課題が提案されそうである。まとめた後、自治会長を中心に地域の人に集まってもらって、課題の解決方法、お宝の活用方法など、どうするかを考える会を10月に行う予定である。
- ・ 9月10日(土) 稲刈り 参加者 約70名
- ・ 12月には餅つき大会を予定しており、準備を進めている。

## Ⅲ. パンフレットについて

### (1) 8月30日付けのパンフレット(案)について

#### 【事務局より】

- ①「地域分権化」について
  - ・ 地域分権について市長に確認したところ、これからやっていきたいという思いはあるが、地域まちづくり協議会を発足することが地域分権にすぐつながるということではないので、外したほうがよいのではないかということになった。
  - ・ 地域分権については、総合計画等でも言われていない。
  - ・ P4の上段、下3行「将来構想としては、市長が、条例などで定めた条件を満たす地域まちづくり協議会を「地域を代表する組織」として認定し、行政が持つ権限と財源の一部を移譲する地域分権の制度化、などが考えられます。」については削除願いたい。
  - ・ P4上段について、下3行を削除すると、内容は進捗状況なのでタイトルを変えていただきたい。

- ・ P 3 のタイトルは「地域まちづくり協議会とすでに活動中の団体とはどのような関係になりますか？」に修正。
- ・ P 1 □内と P 1 の下から 2 行目の地域分権についても削除願いたい。

## ②わかりにくい点について

- ・ P 2 上段 1 1 行目「お互いに顔を見知り合い」、下段 2 行目「共助システム」といった言葉や、P 3 上段 6 行目「オープン体制など」はオープン体制以外には何があるのか、といった点が挙げられる。
- ・ 現案のように文字を追う方法もあるが、視覚的に図解で示すのもよいのではないかという意見もあった。(事務局より図解例の資料を提示)

## 【委員からの意見】

- ・ (事務局から提示のあった図解例をみて) クエスチョンの答えを 3 行くらいで端的に答えてから、説明するという書き方もある。
- ・ 自治会、N P O、地区社協が手をつないでいるといったことを絵で示すことはあり得る。
- ・ 配布先が決まれば簡単にするか、詳しいものにするかも決まってくるのではないか。
- ・ P 1 の 4 行目「目的を掲げて～」の部分はくどいのではないか。
- ・ P 1 の 7 行目「N P O が協力すれば」とあるが、N P O に限定するのはいかがか。「N P O 等が協力すれば」としたほうがよい。
- ・ P 4 の 6 行目について「流山市は、同委員会の事務局を務めると共に、並行して、拠点整備、人材育成、セミナー開催などの施策を進めています。」とあるが、拠点整備については大丈夫なのか。
- ・ 現実問題としてまちづくり協議会の拠点整備についてはまだ

動いていない。この先整備していく覚悟があるのであればパンフレットに載せるがいかがか。

(事務局)

構築していく中で皆さんとやっていかななくてはならないことである。ある程度の拠点がないと会議ができないので、何らかの整備はしていかななくてはならない。

(2) 部数について

\*今回50,000部とのことであるが、全世帯数であるならば60,000部は必要であるので、配布対象をどう考えているのか。(倉田委員)

- ・自治基本条例のパンフレットが50,000部ということで同様にということだったと記憶しているが、配布だけではなく、説明会用ということも含まれている。内容的に平成31年まで変更等が出て持ち続けられないのであれば、部数も再考の必要があると考える。(野路委員)
- ・自治基本条例では、全戸配布ではなく研修、周知用であり、まだ使い切っていない。
- ・配布先を積み上げて考えれば、自治会に5,000部、説明会で各100部ずつ程度であり、2年後には少し変更しなくてはならないことも考えると、全戸配布をしないのであれば50,000部は必要ないのではないか。
- ・これからまちづくり協議会を広げていくための材料にしたい。例えば江戸川台小学校区であれば100部(自治会の役員が約70、地区社協)、新川小学校であれば100部以上が必要になる。トータルでは10,000部あれば足りるのではないか。
- ・協議会を立ち上げる時に説明するための資料であり、一般家庭に配布する必要はない。
- ・一般家庭に配って啓蒙して広めていくやり方とキーマンのみに配布して説明会等で使っていきやり方がある。
- ・全戸配布しても費用対効果は小さいので関係者を絞って活

用したほうがよいのではないか。

- ・ 松阪市の保存版は条例として定まったので配布されたが、流山の場合は、まだそこまでになっていない。
- ・ 20,000部で十分であり、対象者は地域まちづくり協議会に積極的に関心を持ってくれる層でよい。

※ターゲットはまちづくり協議会を設立するための中心人物とし、部数は10,000部とする。

紙質はコート93よりやや柔らかめでよい。

今月中に原稿を作る。

### (3) パンフレット予算について

- ・ 見積もりをとって、50,000部で23万円をお願いしたが、15万円となってしまっているのはなぜか。

(事務局)

自治基本条例の時と同程度でよいのではないかということで15万円になったが、そこはご心配無用である。

## Ⅲ. シンポジウムについて

### 【事務局より】

- ・ 2つのモデル事業の発表会ということで12月3日(土)を提案させていただきたい。
- ・ モデル事業の発表会かシンポジウムかはよく検討していただきたい。

### 【委員の意見】

- ・ 両モデル地区の当事者にも意見を聞きたい。
- ・ シンポジウムをどういう場にするのか、単なる報告の場なのか、自分たちの課題、市の制度としての課題をぶつけてもよいのか、その辺の位置づけはどうか。
- ・ 中間発表ができるかどうかというレベルと、これから育っていくためにはこういう問題点があるので皆で議論するレベ

- ルとがあるが、後者はまだ耐えられないのではないか。
- ・ 去年は12月に説明会を開催したが、12月ということを考えて、モデルにはならなかったが興味のある人もいることを考えて、中間発表だけではなくて、次はどうするかということ、今後市としてはこういうふうにやりたいということを出さなくてはならない。
  - ・ 前半は発表会、後半は兼子課長または相川委員長より、平成24年以降の方針を出して質疑応答とする。昨年の説明会に替わるものとして開催し、現実に困っている問題等もきちんと出していく。
  - ・ 今後のことを考えると、12月というのはよいタイミングであると考えられる。
  - ・ どの人たちを相手に声をかけるのか。自治会長、NPO、地区社協等、全体としては500を超えるところに案内を出していくと思うが、その声かけは市がやるべきである。
  - ・ パンフレットもフルに活用する。
  - ・ 来る人がどういう立場でくるのか。批判的な立場の人もいれば、これからやりたいと思っている人もいるので、それに耐えられる内容にしておかなくてはならない。つまり、モデル地区の単なる報告だけではなくて、これをやることによって地域が変わってくるかということを中心に話せるかが問われる。
  - ・ 後半部分の質疑応答については、モデル地区の人にはさせずに、市と委員会で行う。昨年4会場で行った時に批判もあったが、わからないということがあった。今回は中間報告があるので、興味をもった人も集まると思われ、いろいろな人が来ることを想定しておかなくてはならない。
  - ・ 立ち上げの仕方と現状を赤裸々に話すことが必要である。
  - ・ 後半部分については、発表した人を巻き込まないようにしたいので、前半部分とは切り離して考えたい。
  - ・ 後半では、募集について話すのか、シンポジウムのようなものでもっと掘り下げていくのかといったことが考えられる。



- ・平成24年度で増やしたいこと、委員会としてどう考えているのかは話した方がよいのではないか。
- ・モデルがあって説明するほうがクリアになるので、昨年よりうまく説明できること、関心のある人が集まるであろうことを考えると、昨年の説明会よりは理解も深まるのではないか。

#### 【概ね決まったこと】

- ・次へ向けての説明はさせていただきたい。モデルは公募したいという思いがあるので、その手続の期間や方法については説明が必要である。(兼子コミュニティ課長)
- ・発表して、その内容について関谷先生に評価してもらおうと、質問が出てくると発表者が巻き込まれてしまうため、新川については、運営委員である狼委員、染野委員が答える。流山については、梅谷委員が答える。そういった流れで進める。
- ・12月3日、行政としては午前中に予定しているが、モデル地区として前向きな協力を仰げないか、実質的には依頼する。
- ・来年度のことを考えると開催しなくてはならないと考えるので流山については問題なく協力する。
- ・発表に関して、視聴覚機器は使用可。
- ・関谷先生には出席をお願いする。

## IV. 予算と推進委員について

### ① 予算について

配布資料「平成23年度予算」参照。

- ・【地域まちづくり協議会設置事業】について、2協議会で1,000,000円であるが、平成24年度については、新たに2協議会を予定しているので、計4協議会で、2,000,000円ということになる。  
もし、新規で3つ目が出た場合は、ある程度は予算の範囲内ということで厳しい面もあるが、それ以上のものが出てくれば、

当然進めていきたいので、事業で判断していく。

## ②推進委員について

- ・全市コミュニティ推進委員会は継続し、委員は任期が2年である。
- ・基本的には、来年6月に全員公募をかけなくてはならない。
- ・2名の委員の増員の希望が委員から出された。

## V. その他

### ①東部地区について（野路委員より報告）

自治会連合協議会24名の中から、特別事案検討委員会を作り、現在10名ほどである。10月1日に自治会長と東部地区の市議会議員6名と意見交換会を予定している。地域問題について皆さんがどのように考えているか問題提起していったら、地区社協、NPO等も一緒になってやっていかないといけないということで動いている。

その中で、新川や流山小学校区の動きについては情報提供している。そして、平成24年度で3自治会ずつやってきたことが終了するというところで、平成25年度からはどうするかという選択を迫られるが、今の流れでいくと、向小金小学校区と東小学校区を2つに分けてしまうと母体になる自治会に力関係の差がでてしまうので、むしろ一本化して、小学校区が2つ入ってしまうけれどもそれでスタートしたほうが良いのではないかと考えている。今年から来年にかけてまちづくり協議会を作っていきたいと考えている。

小山小学校については、事務局から資料をいただいたが、具体的にどこでオブザーバー的役割をしたらよいのか、まだわからない状態である。組織がかなりおおがかりなので、兼子課長から教えていただいて、組織との連携を図れるようにしたいというところである。

②江戸川台小学校区について（染野委員より報告）

各自治会は、8月28日（日）の避難訓練実施に向けて集中的に活動していたため、あらためて江戸川台東の自治会長には時間をとってもらえるようお願いしている。また、来年自治会長が変わってしまう自治会については、地区社協の協力を仰ぐことも考えており、今は一人一人をどうしようかということを考えている状況である。

③長崎小学校区について（河村委員より報告）

7月にまちづくり協議会の準備会を作り、コミュニティと地区社協と自治会連合の代表者から成り、代表は関本氏となった。8月にはまちづくり協議会を立ち上げることを確認をしたが、しっかりした事前打ち合わせがなされていないのではないかとといった感じがある。特に自治会連合が本当にまちづくり協議会を理解してやってくれるのかといった様子があるので、地区社協が中心になるまちづくり協議会があっても良いのではないかと考えている。（これに対し狼委員から、西深井地区も地区社協がキーになるのではないかとということが出された。）

※いろいろな形のまちづくり協議会があってもよいので、その地域にあった形で立ち上げていく。

④駒木台第一自治会の自治会広報誌17号、18号は、野路委員が駒木台第一自治会会長からいただいたものである。

## VI. 次回日程

平成23年10月20日（木）14時より第15回全市コミュニティ推進委員会開催予定。

（15時55分 閉会）